

## 先端技術動向

### 第63回日本卵子学会学術集会に参加して

開催日：令和4年5月28～29日

参加方法：現地会場開催に参加

参加報告者：家畜バイテクセンター 伊藤 一樹

#### 1. はじめに

本卵子学会は人類および動物の卵子/精子形成、受精、胚発生、着床および遺伝の研究、体外受精などの生殖医療に関するテーマを議論しており、生産業務に関わる有益な情報を収集するため参加した。

#### 2. 概要

・融解時へのコレステロール添加がウシ凍結／融解精子の受精能力を担保する（広島大学：梅原崇他）

凍結・融解した精液は先体の損傷や生存性・運動性が低下し受精能力を減退させるが、コレステロールを融解時に添加することで先体の正常性や、生存率・直進速度が優位に改善された。また受精試験では精子濃度を下げて試験したところ、コレステロール添加区で受精率が向上したと報告された。精子の正常性が高いものに関して効果は薄い、異常性のあるものはコレステロール

による保護により受精能力を保持することができるのではという報告でした。

・本邦における妊性温存療法に使用する凍結保存タンク管理の実施状況調査（IVF 大阪クリニック：水野里志他）

クリニックで使用している液体窒素ボンベで老化や輸送時の故障で事故が増加したことをきっかけに凍結保存タンクの管理状況についてアンケート調査を実施した。352施設の保存タンクの管理（液体窒素残量）について得た回答では、「液面での確認 72.2%」「重量による確認 5.1%」「液面と重量の両方が 10.5%」「確認なしが 12.2%」であった。液体窒素が満タンから空になる期間は数ヶ月かかるが、日頃の管理や異常時をチェック出来るように見直し、安全指針を作成することが必要であるとの発表でした。

報告日：令和4年6月1日